

組 体 操

ぼくの名前はつよし。今年も、ぼくの一番大好きな運動会の季節がやってきた。小学校最後となる今年は、練習にも熱が入っていた。それに六年生の運動会には楽しみがある。それは、組体操だ。

去年、六年生の心を一つにした演技を見たときから、(来年は、いよいよぼくたちの番だ。すばらしい演技をするぞ。)と心にちかっていたのだ。

それから一年間、体育の時間を使って少しずつ練習を積み重ねてきた。今年に入ってから、集団でする大技も練習するようになった。特にピラミッドは、一人一人に役割と責任がある。(友だちがちゃんとしてくれないからできない。)と、他人のせいになっているうちは、絶対に成功しない。みんなの心が一つになったとき初めて成功する。

ぼくたちのグループも、初めは失敗の連続だった。やつとできるようになったのは、おたがいに声をかけ合い、放課後も練習を重ねた結果だった。

今日は運動会の前日。最後の練習だ。笛の合図でだんだんとピラミッドができあがっていく。二段目、三段目。とうとうぼくの番だ。手と足をいつもの場所に置き、(さあ決めてやる。)と思ったしゅん間、ぼくの体は安定を失い、床に転げ落ちていた。かたに痛みが走る。

ぼくはそのまま病院に運ばれた。骨折だった。

ぼくは、目の前がまっ暗になったようで何も考えられなかった。

病院から学校へ帰ると、わたるくんが泣きそうな顔をしてやってきた。

最初にわたるくんがくずれて、全体がバランスをくずしたのだ。

「つよしくん。ぼく……ごめん。」

つらそうにわたるくんはあやまった。だけど、ぼくは許すことができません。ふいと顔をそむけてしまった。

学校までお母さんが迎えに来てくれていた。お母さんはわたるくんを

「そんなに自分をせめず、つよしの分までがんばってね。あしたの運動会、おぼちゃん楽しみにしているからね。」

と声をかけた。

家に帰ると、ぼくは、

「ぼくががんばりたかったのに、わたるくんにあんなこと言うなんて。」と、お母さんにくっつくかかった。

しかし、お母さんは、

「一番つらい思いをしているのは、つよしじゃなくてわたるくんだと思うよ。母さんだって、つよしがあんなにはりきっていたのを知っているから、運動会に出られないのはくやしいし、残念でたまらない。でも、つよしが他の人にけがさせていた方だったらもつとつらい。つよしがわたるくんを許

せるのなら、体育祭に出るよりも、もっといい勉強をしたと思っよ。」
と静かに言った。

ぼくは、「今一番つらいのはわたるくん」と言ったお母さんの言葉が強く心に残った。

その夜、ぼくは、わたる君に電話しようと思っよと受話器をとった。